

CONTENTS P1 杉野学園創立100周年 記念特集号 P2~3 大学と短大のあゆみーファッション教育の継承と発展ー P4~6 杉野学園創立100周年記念
学生座談会 P7 創立100周年特別展示 図書館・博物館 P8 創立100周年 記念式典挙行・文部科学省 全国学生調査「教育力」全国トップクラスの評価
を獲得・INFORMATION

杉野学園創立100周年 記念特集号



杉野学園は、1926(大正15)年に現在のドレスメーカー学院が開校して100周年を迎えました。
その後、ドレメを母体に、1950(昭和25)年に杉野学園女子短期大学が開学し(2023年に閉学)、
更に1964(昭和39)年に杉野学園女子大学が開学します。現在の杉野服飾大学は2002(平成14)年に
女子大学から男女共学になるに伴い、大学名を「服飾大学」に変更して、いまに至ります。
この間に、大学は学科の増設と共に教育内容も発展し、ファッション分野に特化した専門性の高い
高等教育機関として専門職業人を社会に送り出してきました。

今回の学報48号は、杉野学園創立100年を記念して特集号としてお届けします。

大学と短大のあゆみ



ドレスメーカー学院「卒業式」 1929



ドレスメーカー学院「授業風景」 1938-39



ドレスメーカー学院「仮縫いの様子」 1938-39



ドレスメーカー学院「ミシンによる縫製作業」 1938-39頃



「杉野院長とディオール氏」 1954



「杉野院長による講義」 1968



ドレスメーカー学院「授業風景」 1973

1926 (大正15) 芝南佐久間町電停前和合ビルにドレスメーカー・スクールの看板をかける。4月10日、入学日。11月に品川区上大崎の現在地に移り「ドレスメーカー学院」と改名。

1927 (昭和2) 11月「ドレスメーカー女学院」に校名変更。

1929 (昭和4) 卒業クラス全員が制作した本格的洋装で卒業記念撮影。これを機に以後洋装で通学することを校則と定める。日本で最初の製帽科開設。

1935 (昭和10) 創立10周年記念ファッション・ショウとして日本初の本格的ファッション・ショウを日比谷公会堂で開催。

1950 (昭和25) 杉野学園女子短期大学被服科を開学。杉野学園服飾図書館開館。

1953 (昭和28) 短大校舎・体育館落成。「落成記念杉野芳子ニュー・デザイン・ショウ」開催。

1957 (昭和32) 杉野学園衣裳博物館開館。

1962 (昭和37) 杉野女子大学短期大学部に生活芸術科設置。学生は被服、絵画、ビジュアル、クラフト、インテリアから2科目を選択。

1964 (昭和39) 杉野学園女子大学家政学部被服学科を開学。杉野学園女子短期大学を「杉野学園女子短期大学部」と校名変更。

1966 (昭和41) 杉野学園女子大学を「杉野女子大学」に校名変更。大学名変更に伴い、杉野学園女子短期大学が「杉野女子大学短期大学部」に変更。

1969 (昭和44) 学内研究論文集『紀要』を大学・短期大学部双方のものとして年1回発行。

1970 (昭和45) 大学に「被服構成・デザインコース」「被服テキスタイルデザインコース」「被服科学コース」「被服芸術論文コース」の4コース編成。

1973 (昭和48) 大学に学芸員課程を置く。1972年度生より履修。

1981 (昭和56) 短期大学部に学芸員基礎課程を開講、修得者に学芸員基礎資格証明書を授与。

1989 (平成元) 大学「織物コース」と「染色コース」を開設、大学は計6コース編成。

1990 (平成2) 大学「被服芸術論文コース」を「被服造形論コース」に名称変更。

1992 (平成4) 大学・短期大学部設置基準の一部改正に伴い、新たな授業計画(シラバス)を作成。短期大学部卒業生に「準学士」の称号が与えられる。

1995 (平成7) 1995年度より、大学入試センター試験を利用。

1996 (平成8) 私立大学情報教育協会(私情協)会員校となり、学園内のIT環境設備と教育に積極的に取り組む。

1997 (平成9) PC、アプリケーションソフト(ドローイングや色彩、プレゼンテーション)の導入、液晶プロジェクターなどIT授業のための環境設備を進める。次いでアパレルCADのソフト、デジタイザー、プロッターなど一式を設置。素材開発においては布帛専用のデザインソフトの導入を行う。外部ソフトの導入と同時に本学独自の電子教材を開発する。

2000 (平成12) 中国浙江工程学院(現・浙江理工大学)と学術・人物の友好交流協定を締結。文部省大学教育高度化推進特別経費による開発費補助を受け「被服造形教育におけるデザイン・パターンデータベースの開発」に取り組む。

2001 (平成13) 大学被服学科のカリキュラムを改正し、1・2年次は基礎課程として共通カリキュラム、3年次から「モードクリエーション」「先端ファッション表現」「感性産業デザイン」「アートファブリックデザイン」「ファッション文化論」の5コース編成。短期大学部「ドレスクリエーション」「コスチュームクリエーション」「アパレルクリエーション」「ライフスタイルクリエーション」の4コース編成。大学・短期大学部とドレスメーカー学院が単位互換協定を締結。日野市百草に日野校舎G棟を竣工。



「衣裳博物館での授業」 1967



「化学の実験風景」 1975



「パターン製作の様子」 1982



「テキスタイル捺染の様子」 1983

ーファッション教育の継承と発展ー

- 2002 (平成14) 杉野女子大学を「杉野服飾大学」と校名変更し、服飾学部服飾学科として男女共学とする。被服分野での初めての動画を使った電子テキスト「ドレス構成論・実習」のための『電子テキスト』が2年計画で作成。大学の入学定員を100名から165名に変更。
杉野女子大学短期大学部を「杉野服飾大学短期大学部」と校名変更し、服飾学科として男女共学とする。入学定員を200名から100名に変更。短大「ライフスタイルクリエーションコース」を廃止。杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部『紀要』第1号発行。イタリアのモデリスト養成学校セコリ校と提携。杉野服飾大学附属図書館竣工・開館。日野校舎R棟を竣工。モスクワ国立繊維大学と日露服飾協力協定を締結。
- 2003 (平成15) 短大の生活芸術科閉科。大学「ファッションビジネス・マネジメントコース」開設。
- 2004 (平成16) 寧波服装職業技術学院 (中国) と友好交流協定を締結。
- 2005 (平成17) 大学「ファッションプロダクトデザインコース」開設。
- 2006 (平成18) 高校家庭科教諭を対象に大学・短期大学部合同実施の服飾造形「夏期セミナー」を開催。
- 2008 (平成20) 中国・浙江紡織服装職業技術学院と「両校友好交流に関する協定」を締結。
- 2009 (平成21) 大学にファッションデザイン専攻科を開設。
- 2010 (平成22) 杉野服飾大学日中服飾専門課程を浙江紡織服装職業技術学院に開設。大学が(公財)日本高等教育評価機構による機関別認証評価の結果「適合」と認定される。短大が(一財)短期大学基準協会による第三者評価の結果「適格」と認定される。
- 2011 (平成23) 杉野学園第二校舎 SUGINO HALL 竣工。
- 2012 (平成24) 短大服飾造形実用プログラム (社会人向け) 開講。杉野服飾大学大学院開学、造形研究科造形専攻開設。文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択される。
- 2013 (平成25) 大学にファッションデザイン創造工房を開設。
- 2015 (平成27) 大学の教育課程を改定。1年次を初年次教育課程とし、「モードテクノロジー系」と「ファッションビジネス系」に分ける。2年次以降の専門教育課程として「モードクリエーション」「インダストリアルパターン」「テキスタイルデザイン」「ファッションプロダクトデザイン」「ファッションビジネス・マネジメント」「ファッションビジネス・流通イノベーション」の6コース編成。
- 2017 (平成29) 大学が(公財)日本高等教育評価機構による機関別認証評価の結果「適合」と認定される。短大が(一財)短期大学基準協会による第三者評価の結果「適格」と認定される。
- 2018 (平成30) 杉野服飾大学服飾学部服飾表現学科を開設。「衣装表現」「スタイリング」「ビジュアルマーチャンダイジング」「ショープロデュース」「映像・メディア表現」の5専攻編成。
- 2021 (令和3) 短期大学部の学生募集停止。
- 2022 (令和4) 杉野服飾大学大学院造形研究科造形専攻に「3Dデジタルモデリングコース」を開設し、従来のカリキュラムを「創作表現コース」とする。
- 2023 (令和5) 杉野服飾大学短期大学部閉学。杉野服飾大学服飾学部服飾文化学科を開設。大学入学定員を240名から280名に変更し、収容定員を1,180名とする。
- 2024 (令和6) 大学が(公財)日本高等教育評価機構による機関別認証評価の結果「適合」と認定される。入学定員を280名から190名に変更。イタリア Accademia della Moda IUAD (Institute of Universal Art and Design) と交流協定を締結。
- 2025 (令和7) 大学服飾表現学科「ショープロデュース」「映像・メディア表現」を統合し「メディア表現」とし、4専攻編成に変更。文部科学省実施の「大学教育や学びの実態」に関する全国学生調査で大学が教育・スポーツ・芸術・家政分野において高評価を獲得。
杉野学園創立100周年記念式典を挙る。



「古美術研究旅行」 1983



短期大学部「インテリアデザイン」 1987



「大学祭」 1987



「デッサンの授業」 1993



「杉野講堂での入学式」 1996



「短大卒制コスチューム」 2002



「服飾文化学科での授業」 2023



「服飾表現学科での授業」 2023



「衣裳博物館での授業」 2020



「プロダクトデザインコースでの授業」 2020



「海外研修(アントワープ)」 2015

学生座談会



杉野学園が創立100年を迎えるにあたり、学報委員会では大学在學生による記念座談会を企画しました。

服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科の計7名の学生が集まり、杉野に入学してから現在にいたる学生生活や将来に向けての展望などについて、ざっくばらんに話していただきました。座談会当日は大学祭が終わった片付け日と重なり、自己紹介を兼ねた大学祭での活動から話がスタートしました。2時間にも及んだ座談会は、学科・学年を超えて楽しい交流の場にもなりました。

自分らしく学べる場所

——杉野服飾大学を選んだ理由

水越 今日は集まっていたありがとうございます。座談会に入っていく前に、昨日までの大学祭の様子の話を伺っていました。皆さん多彩な活動をされていたようです。杉野での学びや創作を楽しみながら、自分の専門性を深めている様子が伝わってきました。

それでは最初に、本学を志望したきっかけを伺います。最終的に杉野服飾大学を選んだ理由や決め手を教えてください。

當間（モード4年） 私は沖縄出身で、県内に服飾系の学校がなかったため、進学するには県外に出る必要がありました。どうせならファッションの中心地・東京で学びたいと思い、大学進学を決めました。そんな中、高校の進路室で杉野服飾大学のパンフレットが目に残り、直感的に「ここだ!」と感じたんです。調べるうちにアットホームな校風にも惹かれ、自分の性格にも合っていると感じて志望しました。

実際に入学してみると、想像していたとおり先生と学生の距離が近く、温かい環境だと感じています。

遠藤（テキスタイル4年） 高校ではダンス部に所属して衣装作りを担当して、「ものづくりの楽しさ」を強く感じました。祖母が手芸を得意としていたこともあり、私も幼い頃からもの作りが好きでした。

七五三で母の着物を着たことをきっかけに和服に興味を持ち、着物や染色を学びたいと思うようになりました。大学を探中で杉野服飾大学のテキスタイルデザインコースに出会いました。見学の際、校舎地下にある大きな高機を見て「これを使ってみたい」と強く惹かれたことが入学を決めた理由です。

岡田（プロダクト3年） 高校では生徒会に所属し、文化祭などの行事に忙しく進路を考える時間があまりありませんでした。そんな時、先生に「杉野服飾大学に行ってみたら」と勧められたことがきっかけです。

慌ただしい環境よりも自分のペースで学べる大学を望んでいたのも、夏休みの終わりに杉野を見学した際、「ここなら自分のペースで学べそう」と感じ、進学を決めました。

入学後は課題に追われることもありますが、大変でも投げ出したくなることはありません。今は自分に合った環境で学んでいると感じています。

窪田（FBマネジメント4年） もともとファッションが好きで、将来はアパレル企業で働きたいと考えていました。進路を検討する中で家政系大学や専門学校も候補にありましたが、教養を身につけながら専門的に学びたいと思い、4年間でファッションを学べる杉野服飾大学を選びました。

授業ではアパレル企業の方々と関わる機会が多く、現場に近い学びができました。マネジメントコースでは、企業や他大学との連携を通して実務的な経験を積める点に魅力を感じています。

野地（服飾文化学科2年） 高校では服飾デザイン科に在籍していて、そこで服飾の歴史や文化に関心を持つようになりました。授業で着物を学ぶうちに、職人の技や伝統にも興味が広がりました。

ちょうどその頃、先生から「杉野服飾大学に新しく文化学科ができた」と勧められ、オープンキャンパスに参加しました。学芸員資格を取得している先輩の話や聞き、学びの幅広さに魅力を感じて入学を決めました。現在は学芸員課程を履修し、充実した学びを楽しんでいます。

青木（インダストリアル4年） 私も岡田さんと同じ高校出身で、服飾系以外の進路は考えていませんでした。進路に悩んでいた時、先生から「大学の方があなたに合うかもしれない」と勧められたことがきっかけです。

服飾系の進学先を調べる中で、杉野服飾大学に自分と同じ空気を感じ、「ここだ!」と思いました。自分と似た感性や雰囲気を持つ人が多いと感じたことが、最終的な決め手になりました。

我妻（服飾表現学科4年） 中学生の頃から劇団四季が好きで、いつか衣装制作に携わりたいという夢を持っていました。高校進学の際は、衣装作りには美術的な基礎が必要だと考え、美術を学ぶ道を選びました。

その後、舞台衣装を学びたいと思い、美大ではなくファッションを専門的に学べる大学を探しました。いくつかの学校を見学する中で、杉野の服飾表現学科が舞台衣装を学ぶ環境として最も整っていると感じ、「ここで学びたい!」と思いました。

オープンキャンパスでは、先生方や先輩が温かく迎えてくださり、自分のペースで学べそうな雰囲気に惹かれて入学を決めました。

挑戦が“自分”をつくる ——学びの中で見つけた成長

水越 皆さん、ありがとうございます。

ここからは、入学後の学びについてお聞きしま

す。これまでの授業や課題の中で、特に印象に残っているものや、努力を重ねるうちに「できるようになった」と成長を実感した経験はありますか。

我妻 私にとって特に印象に残っているのは、オープンキャンパスでの学スタ（学生スタッフ）としての活動です。4年間、できる限り参加してきました。消極的な性格を少しでも変え、コミュニケーション能力を高めたいという思いがきっかけでした。

また、服飾表現学科は1クラスのみで、他コースの学生と関わる機会が少ないため、その点にも学スタの魅力を感じていました。先輩からも「いろんな学年やコースの人と関われる」と聞き、自分も挑戦してみようと思ったんです。

活動を通して自分の経験を高校生に伝えることができ、実際に話した学生が翌年入学してくれたことは本当に嬉しかったです。

青木 入学当初はモードクリエーションコースに進むつもりでしたが、インダストリアルパターンコースの環境の方が自分に合ってるかなと選びました。もともとパソコンが好きだったこともあり、服づくりの設計やパターン制作を学ぶ点にも魅力を感じました。

2年次には服の構造や設計の理解が深まり、「服ってこうやって作るんだ」と実感するようになりました。3年次には大学祭の有志として参加したファッションショーで、ほぼすべてオリジナルパターンで衣装を制作して手描きの製図も自分でこなし、検定で学んだ知識を実際の作品づくりに生かせることに大きな達成感を得ました。

高校時代から服づくりに携わってきましたが、大学3年になって初めて「自分は服を作るようになった」と自信を持てるようになりました。

岡田 印象に残っている授業は、教職課程の調理実習です。もともと料理は得意ではないのですが、授業では調味料の計算から配膳までを学び、班で協力して調理を進めました。みんなで作って一緒に食べる時間がとても楽しく、料理の基礎を身につけられたことが大きな学びでした。

杉野に入学してからは、周囲の学生が積極的に挑戦する姿に刺激を受け、自分も前向きに取り組むようになりました。「やってみよう」という気持ちで一步踏み出すことの大切さを実感しています。失敗を恐れず行動できるようになったことが、何よりの成長だと感じています。

遠藤 印象に残っている授業は、1年次の「服飾造形基礎」です。前期はスカート、後期はブ

【参加学生】



當間 優雅
(服飾学科 4年)



青木 理乃
(服飾学科 4年)



遠藤 歩香
(服飾学科 4年)



岡田 陽香
(服飾学科 3年)



窪田 純奈
(服飾学科 4年)



我妻 美夕
(服飾表現学科 4年)



野地 結菜
(服飾文化学科 2年)



伊藤 高広
(文章表現研究室)



水越 綾
(情報基礎研究室)

ラウスを制作しましたが、入学当初は図や記号の意味もわからず、授業についていくのがやっとでした。先生の指示通りに作業を進めるだけで、楽しさを感じる余裕もなかったと思います。

それでも諦めずに取り組み続け、後期のブラウス制作を終えたとき、自分の作品が次年度の参考作品に選ばれました。努力の成果が形になったことで、自分の成長を実感できた瞬間でした。

テキスタイルデザインコースに進級してからは服作りの授業はほとんどありませんが、3年次には自ら織った生地でファッションショーの衣装を制作しました。その基礎となったのは、1年次に学んだ服飾造形です。あの時頑張ったからこそ、今、自分の表現したいものを形にできていると感じています。

當間 印象に残っている授業は「立体造形演習」です。実際の果物を10倍の大きさに紙で再現したり、自分の手を粘土で制作したりと、服作りやデザイン画とは異なる視点から発想力を磨く内容でした。

先生が一人ひとりの作品を丁寧に見てくださり、褒めていただけたことが自信につながりました。細部へのこだわりや仕上げの丁寧さを学び、コースでの課題制作にも生かしています。

課題が大変なときも友人たちと励まし合い、支え合うことで、技術だけでなく粘り強さや信頼関係も育まれました。

窪田 ファッションビジネスマネジメントコースは、産学連携を通して個人ではなくチームで仮想ブランドを企画・立案する点が特徴です。普段あまり関わりのなかった学生と協力しながらコンセプトやターゲットを設定する中で、異なる嗜好や考え方に触れ、ファッションの視野を広げること

ができました。

感覚的にアイデアを出すメンバーと活動する中で、発想を言語化する難しさにも直面しましたが、意見を出し合いながらまとめていく経験を通して、自分の成長を実感しました。チームで学ぶことの大切さを感じた取り組みでした。

水越 皆さん、ありがとうございます。

互いに切磋琢磨しながら挑戦を重ねてくれたことが伝わってきました。その姿勢の中に、本学の建学の精神である「挑戦の精神」「創造する力」「自立する能力」をしっかりと体現されている様子を感じられました。

戦後ドレメ生の習作課題を見て

鈴木 ここで話題を変えて、学報委員会の鈴木から、昔のドレメ生の教材と基礎縫いの習作課題をご紹介します。戦後間もない1946年頃のもんです。色んな部分縫いがありますがご覧になっていかがですか？

学生 わー、すごい。几帳面に縫ってある。

鈴木 これはスモッキング。こっちはバックルですね。

学生 すごーい、かわいい。でもこれでB評価なんだ。厳しい。

鈴木 和紙で作っているものもありますね。皆さんは服飾造形基礎の授業でどんな部分縫いをやっていますか。

當間 まつり、千鳥掛け、ファスナーの部分縫いとか、あと台襟とか。ここにあるようなものもやっています。

鈴木 基礎縫いは今も昔も変わらないようですね。こちらの冊子教材には生徒さんの書き込みがいっぱいありますが、もともとは何も書いてない

無地ノートでした。

学生 計算式とかも細かく書いてある！

我妻 授業でやったことを全部自分で記録しておかないと残らないということですね。

鈴木 授業教材も時代と共に大分変化していますが、こうしてドレメで培われた教育が大学でも生かされてきたわけですね。滅多に見ることのできない貴重な習作課題をご覧いただきました。

今の自分たちが誇れること

水越 今見ていただいた昔の方の作品、すごく細かく丁寧だったけれど、それに対して、今の私たちが誇れることとか、結構頑張っているかなとかありますか。

遠藤 この頃は子供の服とか、自分の服を作るために学校に行く人が多かったと思うんですけど、私たちって、別に、服飾を学ばなくても服はあるし、作らなくても生きていけるじゃないですか。別に学ばなくてもいいけれど、自分の興味を深めるために学んでいるわけですから、昔と今とでは学校に通う意義が違うのかなと思います。

青木 昔のドレメ生の必死さが違うなっていうのを感じました。

そうしないと生きていけない、価値がないみたいな中でやらないといけないところが、我々とは違うんだなって思いました。

たった100年でこんな娯楽的な学びになっていくと思うと、時の流れって早いですね。

遠藤 私はテキスタイルデザインコースを専攻して、日常に対する解像度が上がったなっていう風に思っています。

糸を紡いだり、糸や生地を染色して作ってみたいとか、工場見学に行って、実際にその工業製



戦後の洋裁課題を見る学生たち



戦後ドレメ生の基礎縫い課題



戦後の洋裁テキスト

品として使われる生地を作っている所を見たりとかして、見えてなかったところが見えるようになってきたっていうか。

例えば制服のプリーツスカートは、機械でスピーディーに作ってるんだろうなって思ってたんです。でも、授業で工場見学に行ってみたら、プリーツの部分は人の手で型に1個ずつはめて、綺麗にプリーツをたたんで、人の手がちゃんと加わっているんです。高校3年間履いても、ちゃんとプリーツは崩れないじゃないですか。値段もすごく高いけど、その頑丈さと値段の裏にちゃんと手間がかかっているんだっていうのがわかったというか。

そういう、服飾の大学に行っていないと見えてこないところまで普通にちゃんと見えてくるようになったっていうのは、誇れるところかなと思ってます。

我妻 さっきの、必需品だった服を作るっていうところから娯楽になっていったという、その流れで表現学科ができていて感じます。娯楽になったからこそ、そこをどう見せていくかという分野につながっていくのだと思います。100年続いてきたことで、服飾と、さらにいろんなものが繋がっていているのだという歴史を実感します。



はなかったからね。

窪田 服が作れなくても、ファッションに携わっているというのは嬉しいかなって思います。

部活は楽しく

伊藤 では、話題を変えましょう。みんな、部活はやっているの？(手を挙げる人が3、4人)結構いるね。

岡田 1年の後期に軽音に入りました。周りでみんな色々やるから、私もしてみようかな、というのがきっかけで。自分はピアノを習っていたし、歌うことが好きだったから、キーボードで入って、歌も歌えたらいいなぐらいの気持ちで入りました。大学祭の発表に合わせてみんな練習するんですけど、だんだん人が減っていくんですよ。しかも今年は出番が午前11時だったんですよ。午後だったら、ちょっと回って、なんか体育館でやるらしいから行こうかなみたいな感じで来てくれる人がいるんですけど、今回はもう家族、お友達、後輩、なんか身内の会みたいになってましたね。

當間 私はバスケのマネージャーをしていて、昔杉野は全国1位だったことがあったそうですが、今は全然そんな面影もなく。

隣の立正大と試合をやったことがあって、ボロ負けだったんですけど、でもみんなで楽しんでやっている感じです。

水越 服飾文化学科はどうですか。

野地 歴史ということいえば、大学の博物館に、昔、創立者の杉野芳子先生が作ったドレスとか、西洋のドレスとかもあるんですけど、歴史的なものは触っちゃいけないとかあるじゃないですか。でもそのドレスを昔は実際に着て体験したとか、女優さんに着てもらったとか、今じゃありえないことをやっていたそうです。そういうことも含めて昔の記録に残っているからこそ、いま服飾文化学科で学べてるっていうのもあると思います。

1年生の終わりに行った京都・大阪の研修旅行もすごく楽しくて。京都にある嵯峨技連さんのような、一般の人が入ることができないようなところを見学した時、空気感が違って。職人さんの技を目の前で見せていただいたんです。職人さんのすごさを実感できて、貴重な体験でした。

服飾文化学科って、できたばかりで、学内の人からも、「そんな学科あるんだ」って言われたりして。「そういう学科があるなら学んでみたいみたい」って話も聞きます。今私たちがいるからこそ、後輩たちにもこんなことが学べるんだって伝えられるんだ、私たちが歴史を作っていくんだなって、思いました。

あとは、外部コーチとか、卒業生の人も時々遊びに来てくださって、バスケを教えてもらったりしていますが、バスケのことだけでなく、チームワークとか、卒業後の話とか聞けるのがいいです。

伊藤 意外と有益だね。バスケの伝統は伊達じゃないってことだね。

野地 私はフランス語研究会とコスプレ研究会と、2つ入ってます。

フランス語研究会には1年生の最初から入って、フランス人との交流とか、一緒にお祭り行ったりとかしました。あと、大学祭のマカロン販売、結構売り上げ良かったので、今回打ち上げで、めっちゃいいところ行こう！って話してます。

コスプレ研究会は2年生になってから入ったんですけど、今年初めてコスプレして、衣装とか作るのが超大変だったんで、次からはカメラ係に回ろうって考えてるんですけど。

でも先輩後輩との交流も増えて、友達めっちゃ増えてすごい楽しいです。

未来を見据えて

伊藤 今、将来の目標は見えてますか。

遠藤 私はテキスタイルコースの授業でジーンズの藍染の授業をして、デニム生地そのものにも興味を持つようになりました。今、ジーンズのブランドに就職が決まって、持ってる知識を深めつ

青木 インダストリアルパターンはパソコンをすごい使うんですが、それで簡単にいろんなことができちゃうので、それは今のほうが楽でよかったと思います。テクノロジーが発達した段階で学べているのは嬉しいなって思いますね。

當間 昔の杉野の写真をを見ると、服のデザインって、生地の柄の違いだけで、同じシルエットの服を作っている感じに見えるじゃないですか。今だと、自分が作ってみたいものがあれば、自分で調べて、先生からもアドバイスがもらえて、デザインのバリエーションも広がるから、多分昔よりもやっていて楽しいと思うんですよ。そういうのは、今の時代でよかったなと思います。

岡田 プロダクトって、ペンダントヘッドとか指輪とかカバンなどを作るんですが、正直このコースを選んだのは、もう服作りはいいかなって思って。

服は頑張れば作れるから、トータルコーディネートできるくらい色んなもの作れるようになってみようかなと思ってコースに進んだんですが、昔は多分服だけだっただろうから、今はいろんなものが作れる学科があって、そこは誇れるところかな。

水越 ビジネスはどうですか。昔はビジネス系

つ、ブランドの一員として成長できたらいいなと思っています。

當間 卒業後は、仕事とは別に、副業みたいな感じで編物や刺繍とか、小物作りの販売をしたいなって思ってるのが一つ。あとは、将来絶対沖縄に帰りたいって、杉野で身につけたデザイン力とか発想力を生かして、沖縄の新しい伝統として広げていって、またそこから元々の伝統みたいなものを知ってもらえるような仕事をしてみたいです。

野地 私は学芸員を目指して服飾文化学科に入りました。学芸員って狭き門だから、なれるかわからないんですけど、先生からお話を聞いて博物館にも行くに興味も膨らんで、絶対学芸員になるぞって思ってます。他にも学芸員を目指してる人は多いですね。

岡田 杉野に入って最近気づいたんですけど、私は意外と手先が器用で、大抵のことが見た感じでパツとできる特技があるなって。だからやはりものづくりには携わっていたいなって思います。

一方で、そういうのを言語化するのが苦手なので、そこから挑戦していきたいなと思っています。

伊藤・水越 今日学科を超えて色んなお話を聞くことができました。交流の場としても有意義な時間でした。これからも将来の目標に向かって杉野で頑張っていきましょう。

(収録：2025年10月13日、2204教室にて)

100周年記念展示「杉野学園の服飾教育100年」



杉野学園百周年を迎えた今年度、図書館では「杉野学園の服飾教育100年」というテーマで展示を行っています。第一部「学園の服飾教育の変遷」(6～9月)、第二部「テキスト今昔」(10～12月)、第三部「学園だけにとどまらない全国、世界へ飛び出した杉野」(2026年1～3月)という三部構成で関連資料の展示をしています。

第一部では、学校設立、教育内容の変遷、そして現在に至るまでの流れを杉野芳子先生の著作や自伝、D・M・J会誌などの学園発行の資料とともに展示をしました。

改良を重ね現在まで受け継がれている「ドレメ式原型」は、1933年に杉野芳子先生初の著作『洋裁読本 婦人服篇』(近代社)で紹介され、学内外で「日本人の体型に合う型紙の普及」を目指していたことが伺えます(写真①)。

第二部では、授業で使用された様々なテキストを展示しました。杉野芳子先生をはじめとする教師陣の著作の他、鎌倉書房より出版された「ドレスメーカー」「服飾デザイン」などのように一般向けに販売されていたものもテキストとして使用していました。



第1部展示全体



第2部展示風景

『基礎テキスト』として知られる資料は、『研究科 筆記がはり』(第9版)をはじめとし、当時の学科と基礎縫いのテキストが統合され、『本科基礎テキスト』となったもので、内容こそ刷新されながら1960年代から現在に至るまでの長きに渡り使用されている伝統あるテキストです(写真②)。

この基礎テキストは、後に「中文版」「韓国語版」として、国外へも普及されていきます。杉野芳子先生亡き後の当時の先生方によって作られた『New Pattern Book』は、ドレメ式新原型を使用し、新しく生まれ変わった『Doreme New Pattern Book』へと引き継がれ、学生たちのテキストとして今も使用され続けています(写真③)。

本展示は第三部へと続いてまいります。引き続き、資料を通して杉野学園の今昔を堪能していただけましたら幸いです。

[展示期間] 2025年6月26日
2026年3月24日



ドレメ式原型(元)と『洋裁読本 婦人服篇』



学園発行資料



基礎のテキストの今昔



「Doreme New Pattern Book」とその前身となるテキスト

創立100周年特別展示 図書館・博物館

博物館

特別展「杉野学園の100年と杉野学園衣裳博物館」



杉野学園衣裳博物館は、学園創立30周年記念事業の一つとして1957年に開館しました。

学園創設者杉野芳子先生は1956年に発行された『ドレメ ASSOCIATION 衣裳博物館特集号』の巻頭に、洋裁教育を始めて最も苦労したこととして「デザインを如何にして研究するか」ということを挙げ、以下の様に書いています。

「外国でしたら一歩外にできれば眼に映り手に触れるものすべてが勉強の対象になり、街行く人々の姿にも、集まる人の場所によっても、その時代の服装の研究ができ、目が肥えて参りますが、当時の日本の社会には、勉強の糧にできるようなものは何ものもありませんでした。(中略) 結局そうした日本で見ることのできないものを实际的に触れることが如何に大切であるかを痛感した

しました。」

創設者の「服飾に携わる多くの人々にとって、新しいモード創出の源として、衣裳を身近に感じる場であって欲しい」という思いを担い、当時の国内外の多くの支援を受けて設立し、その後も多くの方々の協力を得て、現在も様々な資料を収蔵続けています。また2015年の学園創立90周年の際には、学園で保存してきた創設者の多くの作品の中から選んだ111点を「杉野芳子コレクション」として新たに収蔵しました。

当館では現在「2025年度特別展示 杉野学園の100年と杉野学園衣裳博物館」を開催中です(1月30日まで)。開館以来約70年、様々な社会状況が変化し、日本のファッションも日々変化を続けています。そのような状況の元、当館が杉野学園の教育や研究とどのように関わってきたのか、その足跡を多角的に展示しています。修復を終えた大正時代のドレスを始め、西洋衣装、日本衣装、民族衣装、スタイル画、1950年代の褶製紙製マニキン等、様々な資料をご覧いただけますので、ぜひ来館ください。

(※本学学生・教職員は無料。学生は受付にて学生証をご提示ください。)



杉野学園衣裳博物館



昭憲皇太后着用ドレス 1912年頃



杉野芳子作品(スカート) 1954



スーツ CHANEL 1990年代



展示風景

杉野学園
創立100周年
記念式典挙行

2025年9月21日、SUGINOホールにて学校法人杉野学園創立100周年記念式典が挙行されました。式典には約300人が出席され、中村理事長の式辞、ご来賓の方々の祝辞が述べられ、海外提携校からのビデオメッセージも披露されました。また会場では現在ファッション界、アート界で活躍する卒業生たちによる作品展示も同時に行われました。続いて、学園に隣接するホテル雅叙園東京にて祝賀会が催され、創立100年の節目を祝う盛大な一日となりました。



文部科学省「全国学生調査」にて杉野服飾大学が「教育力」全国トップクラスの評価を獲得しました！

2024年10月～2025年3月に文部科学省が実施した「大学教育や学びの実態」に関する全国学生調査で、杉野服飾大学は教育・スポーツ・芸術・家政分野において高評価を獲得。学生の視点から大学教育の質を評価するランキングで、以下の項目が全国上位にランクインしました。

本学の、学生に一人ひとりに寄り添う、丁寧で実践的な教育が高く評価されました。

少人数制 × 実践的な教育で未来を切り拓く

創立以来「少人数制によるきめ細やかな教育指導」を重視。教員との距離が近く、授業外の支援も充実しており、安心して学べる環境が整っています。

社会が求める人材を育てる大学

社会の変化に対応し、学修者本位の教育へ転換する今、杉野服飾大学は「社会が期待する役割」や「求められる人材像」を的確に捉え、教育・研究活動を推進しています。



調査結果はこちらから
ご覧いただけます

質問項目	全国順位
TAなどによる補助的な指導	1位
課題への適切なコメント返却	4位
教え方の工夫	5位
教員との意見交換の機会	8位
授業外学習の指示	9位
教職員の教育への熱意	9位
学生の意見が教育改善に反映	11位
異文化理解	15位
卒業までに必要な知識・能力を意識して学修	16位

文部科学省 全国学生調査「学生に高い評価を受けた上位校一覧」(ポジティブリスト)より

INFORMATION

教 務 部

後期末の授業・諸行事予定について

●2026年●

- 1月 5日(月) (冬季休業明け) 平常授業開始
- 1月30日(月) 後期平常授業終了
- 1月31日(土)～2月5日(木) 試験・補講・集中

●集中授業●

- 1月31日(土)、2月14日(土)～16日(月)
教職特別授業及び教壇模擬演習(大3教職履修者)
- 採点結果発表● 2月9日(月)
- 追再試手続き● 2月9日(月)

●次年度オリエンテーション●

- 2月2日(月)～2月5日(木)
- 追再試験● 2月17日(火)～19日(木)
- 卒業式● 3月19日(木)

2025年度 杉野服飾大学・杉野服飾大学大学院 -卒業制作・卒業論文・修了制作 発表会-

大学 服飾学部	服飾学科			
	モードクリエイションコース	ファッションショー	2月7日(土) [15:00～ 約1時間]	SUGINO HALL
	インダストリアルパターンコース	口頭発表 作品展示	2月5日(木) [15:00～16:00] 2月6日(金)～9日(月) [10:00～15:00(日曜除)]	2102教室 小ホール前エントランス [最終日は13:00まで]
	テキスタイルデザインコース	口頭発表 作品展示	2月5日(木) [13:30～14:20] 2月6日(金)～7日(土) [10:00～16:00]	2303教室 2001教室
	ファッションプロダクトデザインコース	口頭発表 作品展示	2月5日(木) [11:00～] 2月5日(木)～7日(土) [10:00～16:00]	小ホール(2105) 小ホール(2106) [初日は13:30から]
	ファッションビジネス・マネジメントコース	口頭発表 卒論展示	2月5日(木)～7日(土) [10:30～14:00] 2月5日(木)～7日(土) [10:00～15:00]	3403教室 3402教室 [最終日は14:30まで]
	ファッションビジネス・流通イノベーションコース	口頭発表 卒論展示	2月6日(金) [13:00～17:30] 2月5日(木)～7日(土)	2303教室
	服飾表現学科			
	衣装表現専攻 スタイリング専攻 ビジュアルマーチャндаイジング専攻 メディア表現専攻	プレゼンテーション 作品展示 プレゼンテーション 作品展示	2月1日(日) 2月1日(日)～3日(火) 2月7日(土) 2月7日(土)～9日(月)	【日野校舎】R棟101・102 / G棟1～3階 / B棟101他 【目黒校舎】2003教室 / 第2校舎地下EVホール
	創作表現コース 作品展示			
大学院 造形研究科	北岩 遼佳	A:ドローイング / B:衣服	2月1日(日)～5日(木) [11:00～20:00(最終日は15:00まで)]	SANDALWOOD(芝公園)
	黄 睿懿	A:空間(黒鉛) / B:ワークウェア	2月1日(日)～5日(木) [10:00～19:00(最終日は15:00まで)]	HALO SPACE 02(恵比寿)
	向 丁怡	A:ドローイング / B:服	2月1日(日)～5日(木) [13:30～19:00(最終日は17:00まで)]	TERRITORY GALLERY(千駄ヶ谷)
	ZHENG HAO(ティコウ)	A:ドローイング / B:映像	2月1日(日)～5日(木) [11:00～20:00(最終日は17:00まで)]	Gallery Conceal Shibuya Space C+D(渋谷)
	中山 孔明	A:写真 / B:ジュエリー	2月1日(日)～6日(金) [12:30～18:30(最終日は17:00まで)]	OCO gallery(富ヶ谷)
	于 爽苒	A:写真 / B:テキスタイル	2月1日(日)～5日(木) [11:00～20:00(最終日は17:00まで)]	Gallery Conceal Shibuya Space A(渋谷)
	曾 静思	A:グラフィックデザイン / B:服	2月1日(日)～5日(木) [11:00～19:00(最終日は16:00まで)]	ei gallery(代官山)
	張 鋼月	A:写真 / B:服装	2月1日(日)～5日(木) [10:00～19:00(最終日は15:00まで)]	HALO SPACE 06(恵比寿)
	柳 陽奕	A:小説 / B:服	2月1日(日)～5日(木) [11:00～20:00(最終日は16:00まで)]	Gallery Conceal Shibuya Space B(渋谷)
	3Dデジタルモデリングコース 作品展示			
	黄 泳欽	A:LookBook / B:服	1月28日(水)～31日(土) [11:00～17:00]	第2校舎 地下EVホール
	菅谷 みちる	A:バーチャル展示 / B:服	1月29日(木)は14:00～17:00(最終日は16:00まで)	
	呂 清濯	A:3D動画 / B:服		

※詳細は後日学内ポータルサイト経由にて掲載予定。大学全学科の卒業制作・卒業論文が動画・画像・資料等で掲出予定です。